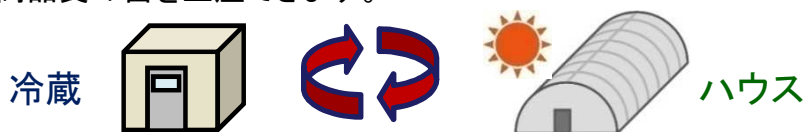


プリムラ類の間欠冷蔵による開花促進技術

【背景・目的・成果】

鉢物・花壇苗のプリムラ類について、夏の高温期に当たる育苗期の間欠冷蔵処理により、開花促進できる技術を開発しました。早生品種では11月初旬からの出荷が可能となり、晩生品種では需要の高い年末期の出荷割合を高めることができます。

間欠冷蔵とは、低温暗黒の冷蔵庫内での管理とハウスでの管理を数日ずつ交互に繰り返す処理です。連続した暗黒冷蔵処理は、冷蔵中に苗が軟弱徒長し、出荷時の株の花や葉が小さくなりますが、間欠冷蔵では高品質の苗を生産できます。

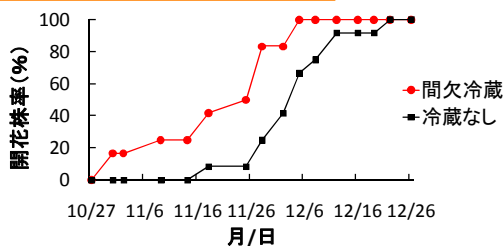


方法



<早生品種> ‘ポニー・イエローシェード’ など

間欠冷蔵
[3日冷蔵-3日ハウス]
×8サイクル
冷蔵温度 10℃



間欠冷蔵



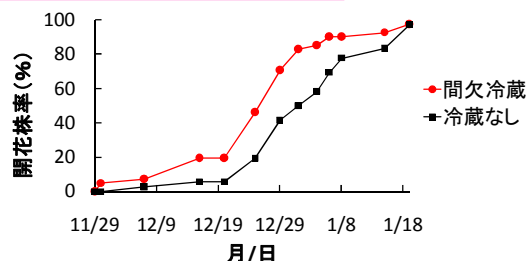
冷蔵なし

開花の状況(12月1日)

品種 ‘ポニー・イエローシェード’

<晩生品種> ‘セブンティ・スカーレット’ など

間欠冷蔵
[3日冷蔵-3日ハウス]
×12サイクル
冷蔵温度 5℃



間欠冷蔵



冷蔵なし

開花の状況(12月27日)

品種 ‘セブンティ・スカーレット’

【技術の活用】 大がかりな冷房施設は不要で、セルトレイが入る大きさの冷蔵庫であれば間欠冷蔵に利用できます。